

消化器内科後期研修プログラム

1 目的

- (1) 研修修了時には、診療、検査、臨床研究のいずれにおいても消化器内科医として自立して判断・行動できることを目標とする。主に入院患者の診療を通じて、消化器疾患全体の病態生理と治療を学んでいく。
- (2) 当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会認定施設であり、学会認定指導医のもと専門医の資格取得を目指し、必要とされる症例の一部を研修する。疾患は多岐に渡り、合併症を持った患者も多く、幅広い臨床能力を養うことができる。

2 研修内容

- (1) 診断:消化器疾患の診断に必要な検査手技である上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、腹部超音波検査、ERCPなどを習得する。
- (2) 治療:治療手技として、イレウスチューブ挿入、内視鏡的胃瘻造設術の術者、消化管出血に対する内視鏡的止血術、食道静脈瘤硬化療法、内視鏡的粘膜切除術、消化管拡張術、胆道系治療(ENBD、EST、Stent、PTBD)、肝腫瘍に対するエタノール注入療法やラジオ波焼灼療法の助手となり、技術のみならず、術前後の対応を学ぶ。その他、消化器癌に対する化学(放射線)療法、炎症性腸疾患のコントロール、急性膵炎の治療、ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法などを修得する。
- (3) カンファランス他:毎週一回ずつ、消化器内科カンファレンス、内視鏡カンファレンスがあり、月に一回、外科・病理科との合同消化器臨床病理カンファレンスが開催される。研究会、学会に参加し積極的に発表を行う。

3 当院において修得可能な検査、治療手技一覧

(1) 検査手技

- 1) 上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、小腸二重造影検査など
- 2) ERCP、PTC、MRCP、3DCTなど膵、胆道系の検査
- 3) 腹部超音波検査、造影超音波検査
- 4) 腹部血管造影およびCT-Angiography
- 5) 肝生検、超音波ガイド下腫瘍生検

(2) 治療手技

- 1) イレウスチューブ挿入

5 指導体制

氏名	役職	専門資格	卒業年
堀内 朗	消化器病センター長 内科診療部長	日本内科学会（認定医・専門医） 日本消化器病学会 （消化器病専門医・指導医） 日本消化器内視鏡学会 （内視鏡指導医・専門医）	昭和60年
梶山 雅史	内科科主任医長	日本内科学会（認定医・専門医） 日本消化器病学会（専門医） 日本消化器内視鏡学会（指導医・専門医）	平成08年

7 週間予定

	午前	午後
月	上部消化管内視鏡検査	大腸内視鏡検査
火	内視鏡病理検討会 腹部超音波検査	大腸内視鏡検査 消化器内科外科検討会（18：00）
水	外来診療	大腸内視鏡検査 内科検討会（18：00）
木	上部消化管内視鏡検査	大腸内視鏡検査
金	上部消化管内視鏡検査	嚥下機能検査、ERCP検査

8 指導医から後期研修医のみなさんに

内科科長の堀内です。当消化器科では、“世界を目指す”ことをモットーに世界に通用する消化器病学および消化器内視鏡学に基づいた診断治療を心掛けています。上部消化管および大腸内視鏡検査、治療や腹部超音波検査を中心に研修していただきます。

この病院で実際に実施されている臨床研究や論文作成方法、国際学会での発表について勉強する時間もあります。ご希望があれば、社会人大学院にも入学できます。世界をリードする日本の消化器内視鏡学と一緒に勉強してみましよう。

お待ちしております。